

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

# ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり  
vol.  
193  
2021.3  
学びから行動へ、行動から学びへの循環



ガイドが米子の町屋に特徴的な吹き抜けの天井を説明中

特集

## まちを丸ごと「おもてなし」

城下町米子観光ガイド

- 04 私たちの活動をご紹介します！  
おむすびの会(鳥取市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報  
(3・4月)
- 15 社会教育・生涯学習担当者紹介(倉吉市)
- 16 鳥取県家庭教育推進協力企業について
- 17 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 19 みてみて♪こんなしとするで～



常駐するガイドの川越博行さん(右)と高梨佳江さん(左)

米子の情報発信拠点として機能する「米子まちなか観光案内所」。ふらっと立ち寄ってもいろいろなお情報を親切に教えてもらえます！

まちをれごと「おもてなし」

## ～城下町米子観光ガイド～

米子の町並みを活かし、地元の人との触れ合いや和文化体験等を提供する「城下町米子観光ガイド」。活動について、一般社団法人米子観光まちづくり公社の理事長でガイドも務める川越博行さんにお話を伺いました。

### 歴史的町並みを保存する活動から

川越さんは、「米子の町家・町並み保存再生プロジェクト」\*<sup>(1)</sup>という任意団体に所属し、2013年から商店街の建物の全棟調査など、町並み保存のための活動を続けてきました。約3年に及んだ調査の結果、米子の商店街の約25パーセントに当たる700棟もの町家が残っていることがわかり、「町家」をキーワードに米子のまちを活性化できるのではないかと考えました。「米子のまちには町家がたくさん残っているのに、全国的にはほとんど知られていなくて。それと、町家がどんどんなくなりつつあるのをなんとかしたいと思っていました」と話す川越さん。

そんな中、自分たちが調査した旧茅野家\*<sup>(2)</sup>が取り壊しになることを聞きつけ、それならば、旧茅野家を拠点にまちづくりの実践をしてみようと考えました。平成30年に同プロジェクトが母体となり、米子の観光ガイドの振興と米子城跡や城下町の歴史的町並みの保全・活用を目的に一般社団法人

人米子観光まちづくり公社（以下、「公社」という）を設立。旧茅野家は、公社が運営する「米子まちなか観光案内所」として生まれ変わりました。

### 大事なものは、お客さん目線のガイド

米子まちなか観光案内所（以下、「案内所」という）で活躍する城下町米子観光ガイド（以下、「ガイド」という）は、女性7名、男性15名の計22名。ほとんどは米子市在住ですが、近隣市町村や島根県在住のガイドもいます。歴史好きな方や米子の活性化に意欲のある方で、中には英語や中国語を話すなど、特技や好きなことを活かして活動しています。

ガイドになるには、「お客さん役」と「ガイド役」を実際にやってみるという研修を重ね、晴れてデビュー。「ガイドは単に知識があればいいというわけではないんですね。相手の興味に合わせて話をする必要があって。今、退屈そうだなとか、そういうことも全部感じ取らないといけない」と話す川越さん。滞在時間、交通手段、宿泊場所、今後の予定

などを想定しながら、お客さん一人ひとりに合わせたきめ細かいオリジナルの観光コースを作成します。

案内所には米子の歴史に関する資料もあり、ガイドはいつでも地元の歴史を学ぶことができます。また、時には歴史の研究者が訪れることも。ガイドにとって、案内所は情報収集や情報交換の場にもなっています。

## 文化財指定で、建物に光を

米子市では、数多く残る町家を文化財に登録する動きがでています。川越さんたちは、文化財になりそうな町家について行政にも情報提供をしてきました。「これまでの活動の中で家主と信頼関係を築いてきたからこそ情報提供ができる」と話す川越さん。「実は、この案内所も含めて4つの建物が国の登録有形文化財への選定段階に入っていて。今後登録される可能性が高く、とても楽しみです」と喜びます。「文化財のプレートがあると、お客さんの目の色が違ってきますね」とにっこり。

町家が文化財に登録されることにより、建物に付加価値が付き、さらに、観光ガイドの見学コースに加えることで、より町に関心を持ってもらえるのではないかと期待しています。

## 個人宅の庭園にも着目

「個人宅の庭園がお宝」という着想で、一般社団法人鳥取県造園建設業協会の協力を得ながら公社主催で個人宅の庭園を見学するツアーを企画するなど、米子にある庭園の掘り起こしにも取り組んでいます。

「町家の庭園は母屋の奥ですね。蔵の手前、囲われたところがあるので、家の中に入ってみないとわかりません。我々が、案内所の近所のみなさんやガイド仲間とともに、庭園の草刈りをボランティアで引き受けながら、庭を一般公開することについて、何を困っているのか公開に対する考え方とかを少しずつ探ってきました。その家に上げていただくためには日頃からの関わりがとても大切になります」と話す川越さん。今では、鳥取県地域づくり推進部文化財課による庭の調査も進められ、庭の公開が実現しました。

さらに、「銀河の運行に合わせて、何かおもてなしのメニューを考えてほしい」と鳥取県とJRから依頼され、公社主催で「米子城で星座を見るツアー」を企画したことも。米子城で地元の歌手を招

いたコンサートと星座の解説をスイーツ付きで開催しました。「星を見ていただくためのイスやテーブルをボランティアで天守まで運ぶ必要があり大変でしたが、とても喜ばれました」と笑顔で話します。

## まちの知名度をあげることが課題

「城下町米子観光ガイド」は今年で3年を迎え、ガイドの回数は400回（2018年）、案内したお客さんは4000人（2018年）を超えました。多い時には、1日で観光バスが6台来たことも。観光客は、米子の町に宿泊し、ご飯を食べてお土産を買うなど、経済にも高い波及効果をもたらしています。

また、観光客がたくさん来ることで、地元の方が自分の町の価値を知り、自信を持ってサービスを提供するという効果もあります。このことが、さらなるまち全体の活性化につながっています。町並みに価値があるということが観光客にも地元の方にも評価されつつあります。それでも、「観光客にとって米子が目的地ではない」と話す川越さん。米子の知名度はまだまだ低く、行政とも連携しながら官民挙げてまち全体の知名度を上げることが重要だと感じています。そのためにも、「まずは、自分たちができる観光ガイドをしっかりとやっていくことと町家を活用していくことが大事」と力を込めて話します。

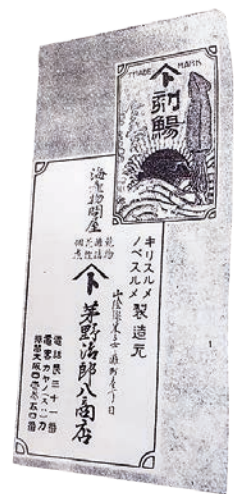
### (1) 米子の町家・町並み保存再生プロジェクト

米子に残る伝統的木造建築の町家を活用し、魅力的で持続性のある米子のまちづくりを推進しようと、米子工業高等専門学校の教員や地域住民らで平成25年に発足。

### ※(2) 旧茅野家

江戸時代の建物で、かつては魚の問屋や畳屋を営んでいました。平成28年から地域住民も参画してリノベーションが進められ、平成30年に「米子まちなか観光案内所」として生まれ変わりました。

海産物問屋を営んでいたことがわかる看板▶



## ガイドとして活躍されている方は、こんな人

- 米子のまちが好き
- 米子のまちのために役に立ちたい
- 米子を訪れる人をおもてなしの心で迎えたい

# ガイドのみなさんにインタビュー！

ディープな米子を知りたい方には、ガイドがおすすめ！



うえだ まさき  
上田 正規さん

下町生まれの私が、大好きな米子の魅力を楽しく心を込めて案内します。ちなみに趣味は、陶芸と中国語です。

米子市民は「米子は何もありません」とよく言います。米子に限らず全国的に名の通った観光地以外の一般的な現象のようです。自信をもって言しましょう「米子は見どころ満載です」



おがわ ただし  
小川 雅さん

城下町米子には  
新たな発見がいっぱいです。  
まちを丸ごと「おもてなし」します！

ある時には、タクシー乗務員、翌日には、米子高専の非常勤講師。残りの時間で観光ガイド。若さで頑張っています。



ながい こういちろう  
永井宏一郎さん

生まれ育った大好きな米子の町を、皆さんと一緒に楽しく歩きながら、その歴史や文化、自然など米子の良さを紹介します。



やまもと ちえこ  
山本千恵子さん

地元の人にも知らないような城下町米子の魅力や面白い話題を楽しく提供したいと思います。是非、お越しください！



すみ たけし  
鷲見 武志さん

ガイドは有料です。個人でも団体でも対応可能

## ぜひ、案内所に立ち寄ってみて！ 物販で米子の魅力を発信中

米子城跡や城下町米子をモチーフにしたお土産はめずらしい！と評判です。この他にも、たくさんのオリジナル商品が手に入ります♪



「米子城古今絵図  
クリアファイル」

川越さんがデザインしたものの。江戸時代中期の城下町と現在の市街地を比較できる。



町家や小路を紹介する冊子

冊子はガイドのみなさんが作成。まち歩きのお供に最適！



吉川広家の「御将印」

米子城ゆかりの武将を図案化した「御将印」は全国的にも珍しい取組。文字はガイドが書いたもの。



「米子城にカモン  
せんべい」

観光客に人気が高い。

連絡先 城下町米子観光ガイド

一般社団法人米子観光まちづくり公社  
TEL : 0859-21-3007  
<https://yonago-tourism.com/>



# 私たちの活動を紹介します

鳥取市

## おむすびの会

寄稿：坂上<sup>さかがみ</sup> マサ子さん

<連絡先> TEL 090-4145-8650

<設立年>平成 27 年

<会 員>

30代～ 80代の 18名。主婦や会社員、食育指導員、食育推進員や管理栄養士などの資格をもつ会員まで、幅広いメンバーで活動しています。



栄養士の先生をお迎えして楽しく料理教室。小学生も参加しました。

### 大切な家族のため、未来のため

おむすびの会は、鳥取の食事情や、家庭・家族の状況を知り、何か役に立ちたいという思いを持った人が集まり話し合ったことがきっかけで、発足しました。

子育て中の多くの方に食の大切さを知らせたいと栄養士の先生から、食について教えていただきましたが、近年は、食べ物の大切さを学ぶための農業体験や料理教室、食育セミナーを行ったり、食という観点だけではなく子どもたちの心身の成長を応援しようと、児童作品展の開催支援も行っています。

### ひと手間を大切にしたい

私たちは、家族や誰かに食事を提供する人へ、「食」を丁寧に伝えています。具体的には、お店で買ったり、家庭で食べる食材に入っている食品添加物の過剰摂取の怖さを伝えたり、有機農産物のおいしさや安全性を伝えています。また、家族で同じ食卓に着き、一緒に食事をとることの大切さ、そのひと手間イコール愛情であるということも伝えることも大切にしています。

食卓に食事や食材が届くまでの過程に、生産・輸送して下さる方、調理・販売して下さる方など、多くの人の関わりがあり、それらに対する感謝の気持ちを多くの人に持ってほしいという思いがあります。



### 結ぶのは「縁」

「おむすびの会」は、「おにぎり」ではなく、人と人、生産者と消費者などさまざまな「縁むすび」の活動をしています。そのため、食の魅力を発信されている団体や、生産者など、多くの方との繋がりが生まれ、その繋がりを大切にしつつ楽しんで活動しています。

農産物の良さやおいしさを知ってもらいたいと、「おふくろの味フェスタ in しかの～鳥取の味力～」にブース出展で参加したところ、大勢の方に喜んでいただいただけでなく、来場された方からの感謝の声を生産者さんに伝えることで、喜びの輪を大きく広げることができました。

### 今後の目標

料理教室などの活動を続けてきた中で、参加者からの「食べられなかったものが食べられるようになった」「またセミナーを開催してほしい」と今後の活動を求めてくださる声に、やりがいを感じています。そして、一緒に作って一緒に食べる喜びを共有することで、繋がりが強くなるということも活動を通して学びました。

コロナ禍ではあるけれども、今後少しずつ、少人数でも教室やセミナーを再開していきたいと考えています。これからも食から免疫力を高め、鳥取県に健康な人を増やすことに貢献していきたいと思えます。

